

8850

第五一號

(裁決)行決後 號同		帶		決行指定		決裁指定		保存期限	
長(部)局		長(部)局		大 臣		件 名		番 號	
				委		鈔道器材票券保安器甲乙外一照制式制定一件		參第 一四八七號	
				官 次 官 次 務 政					
				長局務主官副級高 官與參					
		兵 整		長課務主 副官 主務 書記官					
				員課務主					
				房官臣大 課局務主					
				了結領受 昭領受 昭領受 昭領受					
				昭 昭 昭 昭					
				年 年 年 年					
				三月廿二日 三月八日 三月八日 三月八日					

政務官 書記官 回付(決行前)

甲 器 材

(決行後)

起元應(課名)

審 案 筆記者

陸

軍



陸善

副官より陸軍技術本部長へ通牒

首題ノ件土月陸技術本甲第六八二號、第六八三號

上申ノ通制定セラルヘキニ付該兵器圖(概説共)各

一二七通調製差出サレ度

陸善第七五二號

昭和三年十二月九日

右兵器圖差出アリタル上左案決定セラル度

件名一同右

副官より別紙配賦箇所へ通牒

左記兵器別紙図面ノ通制式制定セラルニ付該兵器圖並概説配賦目錄ノ通送付ス

左記

票券保安器甲、票券保安器乙、

九七式貨車

陸善第七八八號

昭和三年十二月拾四日

昭和拾三年三月拾八日

附屬品送付済

[illegible]

省軍陸
12.11.26
第148號
機械課

概說並審查經過／概要

0592

票 票
券 券
保 保
安 安
器 器

乙 甲

審 概
査
經
過
ノ
概
要 説

票券保安器甲乙概説

用途

票券保安器ハ各種運轉ニ於テ列車間ノ保安ニ使用スルモノトス

構造及機能

- 一、本器ハ甲、乙ノ二種ヲ以テ隣接閉塞區間ヲ區分ス
- 二、本器甲ハ函二、通票一、通券一、屬品及豫備品ヨリ成ル手提式ノ保安器ニシテ重量九匁五〇〇トス
- 三、本器乙ハ通票托板及通票ニ依ル錠作用部位並記號ヲ異ニスルノ外甲ノモノニ同シ
- 四、函ハ蓋、蓋、通票托板及錠ヨリ成リ内部ニ通券約二〇ヲ收入シ得
- 錠ハ當該區間ノ通票ヲ以テスルニ非サレハ開クコトヲ得サル鎖錠裝置トス
- 五、通票ハ徑一〇〇耗ノ圓板ニシテ當該區間ノ函ノ開閉ヲ掌リ列車ハ當該閉塞區間ノ通票ヲ携行スルニ非サレハ運行シ得サルヲ原則トシ一閉塞區間ニ二以上ノ列車ヲ同方向ニ續行運轉セシムル場合ニ限り最終列車ニ携行セシムルモノトス
- 六、通券ハ「ボール」紙製札ニシテ一閉塞區間ニ於テ二以上ノ列車ヲ同方向ニ續行運轉セ

- シムル場合所要ノ記入ヲ爲シ最終列車ヲ除ク各列車ニ携行セシムルモノトス
- 七、屬品ハ草製通票携帶鞆一ニシテ使用ニ方リ通票ヲ收入スルモノトス
- 八、豫備品ハ通券四〇ニシテ函ニ收入ス

票券保安器甲
票券保安器乙
審査經過ノ概要

一、審査ノ起因

昭和十年九月部案ニ基キ審査ヲ開始ス

二、審査ノ經過

(一) 昭和十年十一月試製ニ著手シ昭和十一年三月試製ヲ完了ス

(二) 昭和十一年四月部内試験ヲ實施ス

其ノ結果構造、機能良好ナルヲ認ム

(三) 昭和十一年九月ヨリ同年十月迄鐵道第二聯隊ニ實用試験ヲ委託ス

其ノ結果構造、機能良好取扱便ニシテ實用價值アリトノ判決ヲ得タリ

鐵道第二聯隊ノ委託試験成績拔萃別紙ノ如シ

以上ニ依リ票券保安器ハ制式器材トシテ制定然ルヘキモノト認メ昭和十一年十一月審査ヲ終了ス

9690

別
紙

陸
軍

票券保安器委託試験成績拔萃

判
決

構造、機能良好取扱便ニシテ實用價值アリト認ム

昭和十一年十一月五日
鐵二教第四〇六號



別紙添付

陸軍省

一四八九

昭和

12.11

前

陸

陸

陸技本甲第六八三號

鐵道器材九七式貨車制式制定ノ件上申

昭和十二年十一月二十四日

陸軍技術本部長

久村種樹

陸軍大臣 杉山 元 殿

首題器材ノ制式ヲ別紙圖面ノ通制定相成度關係書類ヲ添へ上申ス

上 申 書 類

鐵道器材九七式貨車制式兵器圖

三十九葉

同 兵器細目名稱表

二 部

同 概説並審査經過ノ概要

二 部



8690

九
七
式
貨
車

審 査
査
經
過
ノ
概
要 説

3
6
件



九七式貨車概説

用途

九七式貨車ハ普通鐵道ノ應急連轉並敷設ニ使用スルモノトス

構造及機能

一、九七式貨車ハ臺車二、車匡一、底板二、側板二、頭板二及屬品ヨリ成リ應急連轉ニアリテハ八咫檣無蓋貨車、又敷設ニアリテハ軌道材料ノ運搬台車並軌條ノ引落台車タルモノトス

主要諸元附表ノ如シ

- 二、臺車ハ臺車匡、「ブレーキ」、連結緩衝器、連結器、車輪車軸、擔ばね、引落ころ甲、乙、箱及踏板等ヨリ成ル四輪臺車ニシテ四。五咫ノ荷重ヲ積載シ得ル強度ヲ有ス
- (一) 臺車匡ハ臺車ノ主体ヲ稱成スルモノニシテ其ノ上面ニ車匡用旋回軸ヲ裝置ス
- (二) 「ブレーキ」ハ四車輪ニ作動スル手用「ブレーキ」トス
- (三) 連結緩衝器ハ件、緩衝ばね、連結栓及連結環等ヨリ成リ臺車匡ノ前部ニ裝著シ他ノ車輛トノ連結緩衝ニ使用ス

連結中心高ハ軌條上面ヨリ三六五耗トス

(四) 連結器ハ体、連結栓及連結環ヨリ成リ臺車匡ノ後部ニ装着シ同一貨車ノ兩臺車ヲ連結スルニ使用ス

連結中心高ハ連結緩衝器ニ同シ

(五) 車輪車軸ハ車輪、車軸、止環、隔筒及軸箱ヨリ成リ隔筒ノ配置變更ニ依リ一米五二

四、一米四三五及一米〇六七ノ三種軌間ニ變更シ得

軸箱ハころ軸受ヲ使用ス

(六) 擔はねハ八枚組合セノ板形はねニシテ一臺車ニ四組ヲ裝置ス

(七) 引落ころ甲、乙ハ軌條ノ引落敷置ニ方リ軌條ノ轉送ニ使用スルモノニシテ甲ハ臺車

匡ノ前端ニ又乙ハ臺車匡ノ後端ニ各二ヲ取附ケ乙ハ所要ニ應シ反轉シ得ル構造トス

(八) 箱ハ二箇トシ臺車匡内ニ取附ケ連結環其ノ他ヲ收入ス

三、車匡ハ体、支棍受、旋回軸受、止「ピン」、支轉車、支棍桿、支棍横桿及車標差ヨリ

成リ二臺車ノ各旋回軸ニ嵌装シ底板、側板及頭板ヨリ成ル何匡ノ底枠ヲ形成ス

四、底板ハ車匡上ニ二ヲ併置シ何匡ノ底面ヲ形成ス

五、側板及頭板ハ車匡ニ取附ケ支棍桿及支棍横桿ニ依リテ支持セラレ荷匡ノ側面及頭面ヲ形成ス

六、屬品ハ旋回架甲、乙各二、軌條結束具二及覆ヨリ成ル

(一) 旋回架甲ハ軌條引落架及敷設補助車ヲ使用スル敷設ニ方リ臺車ノ旋回軸ニ嵌装シ軌道材料ヲ積載スルニ使用ス

(二) 旋回架乙ハ九四式軌條敷設車ヲ使用スル敷設ニ方リ臺車ノ旋回軸ニ嵌装シ軌道材料ノ積載並軌條ノ搬送ニ使用ス

(三) 軌條結束具ハ二臺車ノ旋回架上ニ積載シタル軌條ヲ結束スルニ使用ス

(四) 覆ハ上綿布六號製ニシテ荷匡全体ヲ覆フモノトス

附 表

九七式貨車主要諸元表									
項	目	諸		元	摘	要			
全	長	約七米三〇〇			六、七六〇				
全	幅	二米五〇〇			一、九四〇				
全	高	一米七〇〇			一、五七五				
自	重	二噸九一六			二、九五〇				
車輪	徑	四〇〇 耗			四、〇〇〇				
		一米五二四			一、五二四				
		一米四三五			一、四三五				
		一米〇六七			一、〇六七				
積載許容荷重	無蓋貨車	八噸〇〇〇			五、〇〇〇				
	材料車	九噸〇〇〇			枕木及軌條ヲ積載ス				

陸 軍

九七式貨車審査経過ノ概要

一、審査ノ起因

昭和十一年四月部案ニ基キ審査ヲ開始ス

二、審査ノ経過

(一) 昭和十一年五月試製ニ着手シ昭和十一年七月試製ヲ完了ス

(二) 昭和十一年八月鐵道第二聯隊演習線路ニ於テ試験ヲ實施ス其ノ結果成績概々良好ナリシモ一部改修ヲ要スル點アルヲ認ム

(三) 昭和十一年十月改修ヲ終了シ鐵道第一、第二聯隊演習線路ニ於テ試験ヲ實施ス其ノ結果成績向上シタルモ尙細部ニ關シ改修ヲ要スル點アルヲ認ム

(四) 昭和十二年二月第二次改修ヲ終了シ昭和十二年四月ヨリ同年六月迄鐵道第一聯隊ニ實用試験ヲ委託ス其ノ結果成績良好ニシテ細部ヲ改良セハ實用ニ適ストノ判決ヲ得タリ

鐵道第一聯隊委託試驗成績表別紙ノ如シ
 以上ニ依リ九七式貨車ハ制式器材トシテ制定然ルヘキモノト認メ昭和十二年七月審査ヲ
 終了ス

別紙

陸軍

試製九七式貨車委託試験成績抜萃

昭和十二年六月九日
鐵一教第一八九號

第一判 決

試製九七式貨車ハ其ノ構造、機能並抗堪力良好取扱便ニシテ實用ニ適ス

第二細部意見

意 見	技 術 本 部 ノ 處 置
底板ハ車匡ノ寸法ニ一致シアル爲取扱シニ若干困難ナリ	提把ヲ附シ取扱ニ便ナル如ク修正ス

9090

陸技本甲第八七號

鐵道器材票券保安器甲、乙圖面竝概説送付ノ件通牒

昭和十三年二月十二日

陸軍技術本部副官 伊東

陸軍省副官 楠淵 鎧一 殿

客年十二月九日附陸普第七五一二號通牒ニ係ル首題ノ圖面竝概説
各百貳拾七通送付ス

追テ現品ハ陸普番號押捺ノ上機械課ヘ直送可致ニ付承知セラレ度

(圖面 七枚
概説 壹枚)

陸軍省
昭和十三年二月十二日
陸軍省副官 楠淵 鎧一 殿
陸軍技術本部副官 伊東
陸軍省
昭和十三年二月十二日
陸軍省副官 楠淵 鎧一 殿
陸軍技術本部副官 伊東
陸軍省
昭和十三年二月十二日
陸軍省副官 楠淵 鎧一 殿
陸軍技術本部副官 伊東

昭和十二・十・東京 陸軍省